開校１５０周年　学　校　だ　よ　り

南風（はえ）の子

中種子町立
南界小学校
令和５年 10 月 25 日（水）

秋の夜長，読書を楽しもう

校　長　　芝原　にほ

昭和 35 年，鹿児島県立図書館長を務めていた椋鳩十さんは，『教科書以外の本を子どもが 20 分間くらい読むのを，母がかたわらにすわって，静かに聞く』運動を提唱し，５月の『子どもの日』を期して『母と子の 20 分間読書』が始まりました。この運動は，全国に波及し，その後「親子 20 分間読書」へと発展していったそうです。

鹿児島県では「県子ども読書活動推進計画」を年次的に進め，令和５年度は第四次の最終年になっています。右の写真がそのパンフレットです。「１日 20 分読書」運動～心に残る１冊の本との出会い～をテーマに，小学生期は「多くの本を読み，読書の幅を広げることで出会おう」と取り組み方を紹介しています。

ところで，10 月 14 日付けの南日本新聞を読まれたでしょうか。見出しは「21 歳の６割『全く本読まず』（文科省 22 年調査）」です。この１か月に読んだ紙の書籍（本）の数を問う質問に０冊と答えたのは 62.3%だったそうです。ＳＮＳや動画投稿サイトの普及が一因と考えられるものの，電子書籍なら読んでいるかというと１か月で読んだ電子書籍の数が０冊なのは 78.1%にも上るそうです。種類にもよりますが，本を読むということは，ただ単に情報を得るということとは違うと思うのですが･･･

「子どもが声に出して読むのを母親が聞く」から始まった親子読書運動ですが，親が幼少の子どもに本の読み聞かせをしてやることが，脳や心の成長に好ましいことは広くいわれていることです。私が幼い頃，私を寝かしつけるために本を読んでくれるのは必ず父親でした。父の声の方が寝付きがよかったのでしょう。「親が子供に」「子供が親に」読んで聞かせるどちらのパターンもできるのが小学生期ではないかと思います。そして，少し年齢が上がってきたら，家の中の同じ空間（居間）で，家族それぞれがそれぞれ好きな本を読む時間を作るのはどうでしょうか。大人も本を楽しみましょう。

読書好きの子供を育てるには，環境が大切だと思います。毎日はできなくても，時々はテレビを消して家族みんなで本の世界に浸ってみてはいかがでしょうか。きっと素敵な出会いがあるはずです。